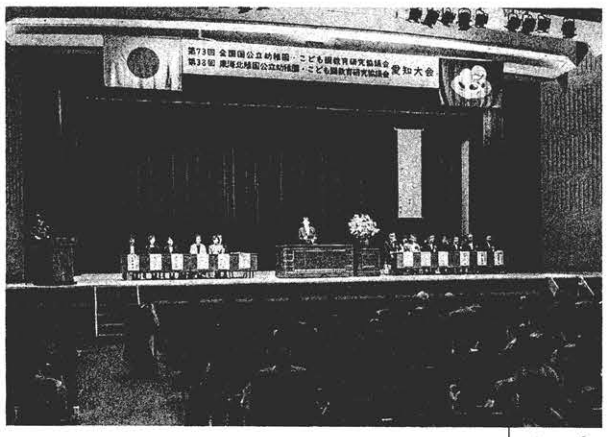
（第３種郵便物認可）　日本教育新聞

「やってみたい」があふれる幼児教育へ

全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会愛知大会 (上)

全国国公立幼稚園・こども園長会（会長＝森山未来・東京都渋谷区立臨川幼稚園園長）などは7月29、30の両日、名古屋市で第73回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会愛知大会を開催した。研究主題は「〝やってみたい〟があふれる幼児教育の未来～全国国公立幼稚園・こども園の存在意義の発信～」。研究発表、五つの分科会などを実施し、子どもも保育者もわくわくして園全体に「やってみたい」があふれる幼児教育を学び合った。



「〝やってみたい〟があふれる幼児教育の未来～全国国公立幼稚園・こども園の存在意義の発信～」を主題に開かれた愛知大会

研究発表から

研究発表は、①教育内容②教育課題③園経営―の3テーマで実施。教育内容は宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園、教育課題は徳島県上板町立東光幼稚園、園経営は京都市立みつば幼稚園が、それぞれの取り組みを発表した。

子と素材との出会い 関わりを見つめ直す

宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園

宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園は「遊びや生活を通した主体的な学びを目指す」を目標に、子どもの発達に応じた教育環境の中で個々の望ましい発達を促すような園生活を展開し、幼児期に育てたい資質・能力の育成を図っている。

研究テーマは「子どもの遊びを豊かに～素材との出会い・関わりを見つめ直して～」。子どもたちが新たな素材との出会いの中で楽しんでいることを見つめ直し、それぞれが素材と出会いながら遊びを展開していくための援助の在り方を探ることで子どもの遊びがより豊かになり、発達に必要な経験を確実に積み重ねていくことができるのではと考えて設定した。

これを受けて、①自ら関わろうとするときを捉えて②教師が願いを持って関わって③やりたいことが重なったときを捉えて④「もっとやりたい」と遊び込めるように―の4視点で、子どもたちと素材との出会い・関わりを見つめ直しながら保育を実践した。

段ボール片で乗り物や生き物を作っていたときには4歳児に全く使われなかった空き箱だが、一人の子が「大きいキリンを作りたい」という自ら関わろうとするときを捉えて出すと、自分の思いに合うものを選んで制作に取り組む。その後、この子も他の子たちも空き箱でさまざまな動物を作り続け、最後は動物ショーの開催に発展した。

人と関わる楽しさ 役に立つ喜び味わう

徳島県上板町立東光幼稚園

徳島県上板町立東光幼稚園は、小学校や地域の人たち・文化を生かした環境を通した教育で幼児の人と関わる力を育み、伝え合い、つながり合い、学び合い、育ち合う、幼稚園教育の魅力を地域に発信するための実践内容と方法を明らかにする研究を進めた。

指導の重点は、集団生活の中で子どもが自己発揮し、保育者や他の子どもに認められる体験をし、自信を持って行動できるようにすることとした。実践では小学生や地域の人など自分の生活に関係の深い人たちと触れ合い、自分の感情や意思を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して親しみを持ち、人と関わることの楽しさや役に立つ喜びを味わうことができるように心掛けた。

「これまで取り組んできた伝統的な活動や行事の評価と改善」「カリキュラムの評価・改善と保護者や地域への発信」などの取り組みを通して、①豊かな体験を通じて感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識および技能の基礎」②気付いたことやできるようになったことを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」③心情、意欲、態度が育つ中でより良い生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」―を一体的に育むように努めることが重要という共通認識に至った。

家庭から幼稚園への 接続の視点を大切に

京都市立みつば幼稚園

京都市立みつば幼稚園では、入園前の親子を支えることを園経営の中核の一つと考え、園を遊びの場として未就園親子に提供する「ひよこ組」、2歳児親子対象の「うさぎ組」、満3歳児が参加する「つぼみ組」を実施し、「家庭から幼稚園への接続」という視点を大切にした子育て支援に取り組んできた。

「つぼみ組」の実践を通して、2歳児の子どもの育ちを探り、家庭とも連携しながら親子の育ちを支える在り方を考えている。在園児（3・4・5歳児）と「つぼみ組」のつながりを生かした保育も実践している。近隣の小規模保育施設や保育園に園庭や遊戯室を開放したり、子育て支援のイベントに参加を呼び掛けたりするなど、地域における幼児期の教育のセンターとしての役割も果たしている。

「つぼみ組」の未就園児（満3歳児）の子どもの事例。保育者は全ての安心基地であった母親と離れる子どもの不安をしっかり受け止め、「幼稚園ではこの人を頼ってもいいんだ」と思ってもらうこと、遊ぶ楽しさを味わい「幼稚園って楽しい」と感じてもらうことで安心につなげた。保護者の不安も受け止めながら、園で楽しんでいる様子や子どもの持つ乗り越える力、少し先の見通しを伝えて、家庭と連携していった。